

## 基本理念：価値を高める観光で函館を照らす ～もう一回、もう一泊、もう〇〇～

基本方針	前回の会議で方向性として確認したもの			前回の会議で新たに項目設定が必要と判断されたもの
	方針1 質の高い観光により観光消費額を向上させる	方針2 観光の繁閑差を是正する	方針3 函館観光を盛り上げる人を増やす	
	<p><b>(考え方・狙い等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に旅行者の数だけを追い求めるのではなく、質の高い観光へ 「サービス満足度向上」「富裕層誘客」「高い満足度商品」等 →「一人当たり観光消費額向上」「宿泊日数の増加」「リピート促進」</li> </ul>	<p><b>(考え方・狙い等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光の入込の季節の平準化を目指し、オーバーツーリズムを回避しつつ効果的に観光客の入込増と地域全体としての観光収入の増加を目指す。</li> <li>・このことにより、観光関連産業の経営の安定化とともに、雇用者を確保しやすくなることが期待される。</li> </ul>	<p><b>(考え方・狙い等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が地域の観光に関心を持ち、観光の取組への貢献意欲の醸成につながる取組を進め、観光産業の将来の担い手の円滑な確保、市民の函館愛の醸成につなげる。</li> </ul>	<p><b>(考え方・狙い等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光消費による他産業への経済効果を高め、地域における雇用機会の増加や都市整備への投資等を促進させ、市民生活を豊かにする。</li> <li>・函館市の経済循環の特徴を市民に周知し、観光に対する市民の理解を向上させ、経済循環を促進する。</li> </ul> <p>※経済効果、経済循環は産業連関表で計測するが、他産業の不振により十分な効果、経済循環がなされない（数値が低くなる）等の可能性が出ることから指標化が困難</p>
	<p><b>(関係するこれまでの議論のキーワード)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング、戦略的観光施策</li> <li>・観光客数ではなく消費額を重視</li> <li>・魅力あるコンテンツの造成、高い満足度</li> <li>・わかりやすく、適切な情報発信、洗練された情報発信人材</li> <li>・多様性、ユニバーサルデザイン</li> <li>・質の高いガイドの確保・育成</li> <li>・宿泊日数増加につながる取組の重要性</li> <li>・二次交通の改善 など</li> </ul>	<p><b>(関係するこれまでの議論のキーワード)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閑散期対策による観光業の経営安定</li> <li>・下期は観光客誘客推進 ATコンテンツの見せ方の工夫 閑散期の戦略的なインバウンド誘致 MICEの推進 など</li> </ul>	<p><b>(関係するこれまでの議論のキーワード)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函館の観光に関心を持つ若者が活躍できる場の確保</li> <li>・地元の人が市内の名所を訪れ発信できる環境づくりの必要性</li> <li>・地元の大学等の卒業生の地元企業への就職拡大 など</li> </ul>	<p><b>(関係するこれまでの議論のキーワード)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光基本計画の主は観光事業者であるが、市民や他産業の事業者への意識は必要</li> <li>・観光業の収入増加=その他函館市産業の発展・函館市民の豊かさに繋がるという経済循環を示す</li> <li>・他産業との連携、経済循環を増やす、経済波及効果などは重要なキーワード</li> </ul>

# 函館市観光基本計画における基本方針

基本方針	<h2>施策展開のイメージ（案）</h2> <p>※計画書本体では文章量を増やして 読み手に理解しやすいように編集予定</p>	これまでの議論のキーワード
方針1 質の高い観光 により観光消 費額を向上さ せる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人当たりの観光消費額の向上を目指すため、「観光（飲食含む）のサービスの質のレベルアップを通じた観光価値の上昇」「高級志向の旅行商品の造成」等の取組を進める。</li> <li>○観光客に満足頂けるよう（質の低下につながらないよう）観光サービスの向上のほか、交通や情報収集等における利便性を高めるための取組を進める。</li> <li>○滞在期間中の観光消費額の向上につなげるため、上質な観光プランの造成や近隣地域との連携を深めるなど函館市内での連泊につながる観光の取組を進める。</li> <li>○LGBTQ、高齢者・障がい者など「誰でも楽しめる」観光地づくりを進める。 →いずれも観光消費額が比較的高い層と位置付けられている。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング、戦略的観光施策</li> <li>・観光客数ではなく消費額を重視</li> <li>・魅力あるコンテンツの造成、高い満足度</li> <li>・わかりやすく、適切な情報発信、洗練された情報発信人材</li> <li>・多様性、ユニバーサルデザイン</li> <li>・質の高いガイドの確保・育成</li> <li>・宿泊日数増加につながる取組の重要性</li> <li>・二次交通の改善 など</li> </ul>
方針2 観光の繁閑差 を是正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インバウンドは閑散期に比較的来訪実績があることから、「インバウンド」をターゲットに閑散期の展開が可能な観光商品づくりや既存観光プランの磨き上げ、的確な情報発信の取組を進める。 ※高齢者・障がい者も閑散期に比較的来訪頂ける対象との調査結果もある。</li> <li>○閑散期に函館を訪ってくれる観光客の動機等を把握し、秋（11月は景観劣るが、雪の心配はない）と冬（雪の時期）それぞれの季節に応じた観光商品づくり・磨き上げ、的確な情報発信の取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閑散期対策による観光業の経営安定</li> <li>・下期は観光客誘客推進 ATコンテンツの見せ方の工夫 閑散期の戦略的なインバウンド誘致 MICEの推進 など</li> </ul>
方針3 函館観光を盛 り上げる人を 増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>○函館市民が地域の観光に関心を持ち、観光の取組への貢献意欲向上や函館愛の醸成につなげ、地域経済循環を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・函館の観光に関心を持つ若者が活躍できる場の確保</li> <li>・地元の人が市内の名所を訪れ発信できる環境づくりの必要性</li> <li>・地元の大学等の卒業生の地元企業への就職拡大 など</li> </ul>
方針4 函館の経済効果 を高め、函館を 豊かにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光消費の経済効果を高める取組を進める →地産地消、地元食材のPR等を通して、地域生産品の消費や競争力を高める取組を行う。</li> <li>○函館市民に地域経済循環における観光の位置づけ・重要性を認識してもらう取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光基本計画の主は観光事業者であるが、市民や他産業の事業者への意識は必要</li> <li>・観光業の収入増加=その他函館市産業の発展・函館市民の豊かさに繋がるという地域循環を示す</li> <li>・他産業との連携、域内循環を増やす、経済波及効果などは重要なキーワード</li> </ul>